

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 6 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

熊本大学医学部附属病院

研修医 前田 和也 2015 年 5 月

熊本大学医学部初期臨床研修 2 年次の前田和也と申します。

2015 年 5 月の 1 か月間、地域医療研修を出水総合医療センターでさせていただきました。とても印象深い研修となった 1 か月間でした。

私は出身が出水市高尾野町であり、下水流小学校、高尾野中学校、出水中央高校と、高校までは地元の学校に通っていました。

今回、地域医療の研修先を選ぶにあたって、地元の医療はどうなっているのか実際に体験してみたい、という思いで出水総合医療センターを選択させていただきました。研修は出水総合医療センターの他、野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター、特別養護老人ホーム鶴寿会たかおので行わせていただきました。

研修内容ですが、野田診療所では外来陪席や往診、また、エコー等の検査を行いました。今までエコーのレクチャーをしっかりと受けたことはなく、なかなか思うように画像を出せなかったのですが、内村先生にしっかりと指導していただき大変勉強になりました。高尾野診療所では実際に外来診療を行いました。慢性疾患を診るという経験が今までなく、戸惑う場面もありましたが、注意すべきポイント等指導していただきなんとかこなすことができました。出水総合医療センターでは消化器内科で研修させていただきました。主に消化器センターで研修させていただき、腹部エコー、内視鏡検査の指導をしていただきました。指導医の先生方がやっているのを見ているとそんなに難しそうに見えないのですが、実際に自分でやってみると全く思ったようにならず、経験不足、技術不足を実感しました。特にエコーは将来どの科にいくにしろ必要な手技であり、技術の向上に努めたいと思います。外来では、知識としては知っていても実際に診たことのない疾患をいくつかみることができとても勉強になりました。

また、医療センターでは医療安全管理室、地域医療連携室、リハビリテーション科、臨床検査科でも研修をさせていただきました。今までそういう部署があることは知っていても、どのような内容の仕事をしているのかよく理解していませんでしたが、今回話を伺い、また実際に様々な体験をさせていただき、医療が様々な職種の連携によって成り立っていることを実感できました。

1 か月という短い期間でしたが、今までの研修ではできなかった経験がたくさんあり、とても勉強になりました。今回学んだことを今後に生かし、医師として成長し、将来は出水の医療に貢献したいと思っています。研修担当の宗清先生、消化器内科の先生方をはじめ、多くの人に大変お世話になりました。ありがとうございました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 7 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

研修医 霧島 茉莉 2015 年 6 月

鹿児島大学病院初期研修医 2 年目の霧島茉莉です。地域医療研修として、2015 年 6 月の 1 ヶ月間、出水総合医療センターで研修させていただきました。

野田診療所で研修を開始し、先生の御指導の下、上部消化管内視鏡検査や心臓・腹部・頸部エコーを行いました。訪問診療では雨に濡れた茶畑や田園の美しさに感動するとともに、民家の疎らな地域や山中に住む高齢者の生活に触れて、地域における福祉と医療の充実が求められていることを痛感しました。

雨の多い季節でしたが、晴れた日には脱水や熱中症による救急患者を経験しました。高尾野診療所では田植え中に熱中症で倒れて救急搬送された農家の方を診療しました。通常の外来では、高血圧や糖尿病、狭心症などの慢性疾患で通院している患者の診療を行いました。

特別養護老人ホーム鶴寿会たかおのでは認知症のある方の診療や気切チューブの入れ替えなどを行い、介護と医療の交わる現場を見ることができました。養護老人ホーム、通所介護、認知症対応のグループホームなど鶴寿会の経営する他の施設についても説明を受け、福祉施設の法的根拠を学ぶとともに、地域の必要性に対応した鶴寿会の取り組みを知ることができました。

出水市保健センターでは乳幼児の健康相談や 3 歳児検診を見学しました。検診後のカンファレンスには保健師、看護師、歯科衛生士、臨床心理士など様々な職種の方が参加し、発達や発育に支援が必要と思われる子どもとその家族にどう関わっていくかを検討していました。医学的に見る発育や身体所見の評価だけでなく、保護者と子どものやりとりや言葉の選び方、待ち時間に子どもが他の子どもとどのようにコミュニケーションをとっているかなどを多角的に捉える視点は大変勉強になりました。

出水総合医療センターでは総合内科で研修しました。総合内科外来では心窩部痛や腰痛、めまいなどを主訴とする患者を診療し、問診と診察を行いながら鑑別を進めることを学びました。救急外来では意識障害と片麻痺で救急搬送された脳血管障害の患者や、転倒による大腿骨頸部骨折の患者、交通外傷の患者など様々なケースの初期診療を経験しました。精査加療のため患者を出水郡医師会広域医療センターへ搬送する際に救急車に同乗したこともよい経験となりました。また医療安全管理室、地域連携室、臨床検査科やリハビリテーション技術科での研修を通して、安全で質の高い医療を提供するためには多職種の連携が重要であることを学びました。

地域の必要性に応える医療の在り方を意識し、今後も救急の初期対応を含めて総合内科的な視点を培っていきたく存じます。御指導くださった先生方、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げ、研修報告とさせていただきます。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 8 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

研修医 池 俊浩 2015 年 7 月

はじめまして。鹿児島大学病院初期臨床研修医 2 年目の池 俊浩と申します。

今回、地域医療研修として 1 ヶ月間、出水総合医療センターおよび関連病院で研修をさせていただきました。私は、大学から鹿児島の地にやってきたのですが、出水を訪れるのは今回が初めてでした。移動する車からみえるのどかな田園風景や、美味しい食事と良質な温泉に心と身体を癒されながら、研修に関する先生方、スタッフの皆様、地域の患者様に温かく支えられて、毎日楽しく充実した研修生活を送ることができました。

研修は、出水総合医療センターを中心に、野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター、特別養護老人ホームなど様々な施設で行いました。

各診療所の研修では、外来診療や訪問診療を中心に勉強させていただきました。今まで大学病院での研修では、紹介状があり診断がついている方や急性期医療が中心だったため、初診でこられた患者さんを自分で最初から診ること、慢性期医療に接するのは初めての経験でした。診療所の先生方が、自分の専門領域に関わらず、あらゆる症状の患者様の診療に当たっておられることに驚き、患者様の社会的背景を考慮することはもちろん、幅広く深い教養や技術を習得すべきことの多さも痛感しました。内村先生や西元寺先生のような、地域の患者様の最も近くで長年診療に当たってこられた先生方の経験談等も印象深く心に残っています。開業医の先生方も交えた勉強会にも参加させていただきました。地域医療を支える上で、縦・横の繋がりが、限られた医療資源の中でも高いレベルの医療を維持できていることに直結しているのだと実感しました。

院内では、消化器内科で研修をさせていただきました。内視鏡検査や超音波検査を中心に学びました。中でも内視鏡検査を本格的に勉強させて頂き、不器用ながらも日々少しずつ出来ることが増えていくことの喜びを感じながら研修できました。嵯山先生、田ノ上先生、川平先生、中澤先生、指宿先生には、基礎から丁寧に御指導頂き、心より御礼申し上げます。また、医療安全管理室、地域医療連携室、臨床検査科、リハビリテーション科でも研修をさせて頂き、普段大変お世話になっている多職種の仕事内容を実際にみて話を伺うことができ、安心安全な医療の提供が多職種によって支えられており、情報共有の重要性を改めて認識することができました。

1 ヶ月という短期間でしたが、私にとってはとても濃密な時間でした。大学病院や中核病院は特殊なのであり、地域医療の現場こそが、『医療の最前線の現場』であると思います。限られた医療資源で治療を行うことや、患者様の QOL を支えることの難しさを実感するとともに、専門分野の知識だけでなく患者様を総合的に診る幅広い知識を求めると患者様の社会的背景まで把握することも医師にとって重要なスキルだと考えるようになりました。まだまだ未熟者ですが、将来は私も地域医療を担えるような医師になれればと思います。

最後になりましたが、1 ヶ月という短い期間にも関わらず、熱く丁寧に御指導して下さった先生方、温かく迎え入れて下さった病院スタッフの皆様、地域の患者様に、心より感謝の御礼を申し上げます。ありがとうございました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 8 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

熊本大学医学部附属病院

研修医 近藤 匠 2015 年 7 月

熊本赤十字病院 研修医 2 年次 近藤匠です。大学を卒業したのち 2014 年 4 月から 2 年間の初期臨床研修が始まり、熊本大学医学部附属病院のたすきがけプログラムに参加し、1 年間熊本大学医学部附属病で研修を行った後、2015 年 4 月から熊本赤十字病院で研修を受けています。

今回、7 月から始まった出水市での地域医療研修に参加し、高尾野診療所、野田診療所をそれぞれ 1 週間、出水総合医療センターで 2 週間研修させて頂きました。

高尾野診療所での研修では主に外来診療と在宅診療を経験しました。普段の研修では経験する機会の少ない外来での接し方について経験することが出来ました。また、近くにある特別養護老人ホーム「たかおの」の訪問診療にも参加し、入居者されている方々の健康状態をチェックし、必要に応じて薬剤の処方を行いました。地域医療の中でも高齢者医療は重要な領域を占めており、今回の研修を通して普段から住民の方々の状態を確認することで病気を早期診断、早期治療に取り組むことができると感じました。

野田診療所での研修では、主に外来での心エコー検査、腹部エコー検査、上部消化管内視鏡検査を内村先生の指導のもとで行いました。さらに、外来を新しく受診された方の問診、診察を行い、どのような検査を行うかという方針について自分で検討し、実施する機会を得ることが出来ました。診療所での検査であるため、血液検査、レントゲン、心電図、エコーなどの検査方法が限られていることもあり、いかに問診と診察の段階で状態が重篤なものかどうかを判断しなければならず、プライマリ・ケアの実践という意味では特に貴重な経験となりました。5 日間という短期間の研修でしたが、その中で検査技能が以前よりも上達したことを感じました。また、訪問診療では職員の方々と車に乗り、遠方の住民の方々の健康管理を行いました。

出水総合医療センターでは、循環器内科を 2 週間研修し、紹介患者の問診と診察や、冠動脈造影検査、心嚢穿刺を見学させて頂きました。救急当直では地域の基幹病院であるため、多様な症状を訴える患者が walk in、救急車で来院されており、自分の専門科以外であっても診察、検査を行ったのちに入院させるか外来でフォローするかなどを判断する場面が多かったです。来院患者の状態に応じて対処するための幅広い知識を持ち、状況に応じて適切に専門科へ相談できる密な連携を取れているかがいかに地域医療で重要か改めて感じる実習でした。

最後に、お忙しい中指導して下さった先生方、コメディカルの方々および今回の研修に携わって下さった方々に心よりお礼を申し上げます。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 9 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

九州大学病院

研修医 大場 未紀 2015 年 8 月

九州大学病院初期研修医 2 年目の大場未紀と申します。

2015 年 8 月の一ヶ月間、初期臨床研修プログラムの地域医療として、出水総合医療センターで研修をさせて頂きました。

鹿児島は気候と人柄が暖かいイメージがあり、またこれまで本物の鶴を見たことがなかったため、出水での研修を希望させて頂きました。新幹線で出水市に向かう風景の美しさは今も目に焼き付いています。

出水総合医療センターをはじめ、野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター、鶴寿会たかおのなど多くの施設で研修を行いました。研修を通じて、スタッフの距離の近さ、内科と外科の連携の素早さ、先生方の臨床能力や技術の高さ、患者さんと気軽に世間話をできる雰囲気大変驚きました。各診療所では、外来での慢性疾患のフォローを中心に経験しました。また、外来に来られる御高齢の患者さんは皆さんとてもお元気で、診察の時に患者さんとする会話が毎日楽しみでした。

往診では、医療機関への受診が難しい方への診療を学びました。家庭や社会背景は様々で、各状況に応じて柔軟な対応が求められました。特に往診と上場診療所では、十分な医療を提供することの難しさを感じました。

院内研修では消化器内科を選択し、吐血、下血、急性胆嚢炎など多くの症例を経験しました。また、上部消化管内視鏡を先生方の指導の下、操作させて頂きました。貴重な経験ができました。その他、内科、外科の連携が大変スムーズだったことに驚き、科と科の垣根の低さの大切さを学びました。

地域医療研修を通じて、プライマリケアの重要性、幅広い医療の知識と技術、限られた医療資源で如何に診療していくか、長期的で横断的な治療計画、医療面以外の患者さんの背景を考えての診療が大切だと感じました。

最後になりましたが、宗清先生、嵯山先生をはじめとする消化器内科の先生方、各科の先生方、各診療所の先生方、サポートして頂いたコメディカルの方々、職員の皆様、特に山下さん、そして貴重な経験をさせて頂いた患者さんに深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 10 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

研修医 鮫島 光平 2015 年 9 月

鹿児島大学病院初期研修医 2 年次の鮫島光平と申します。平成 27 年 9 月の 1 ヶ月間地域医療研修として出水総合医療センターでお世話になりました。出水に来る直前の 8 月 25 日未明に台風 15 号が鹿児島県を襲い、市街地や山道では木々が根こそぎ倒れていたり、瓦が飛んでいたりとその甚大な被害の一端を垣間見ることとなりました。被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。

さて、私は今回の研修を行うまでずっと鹿児島市内で過ごしてきましたので、今年の 5 月に「出水肉まつり」でお邪魔するまでなかなか出水まで足を伸ばす機会がなく、馴染みのない土地でうまくやっていけるかという不安を抱えながら第一週は野田診療所で研修を行いました。野田診療所では CT をはじめ多くの検査ができるということに驚きました。腹痛の患者さんに対して必要とあればその場で前処置を開始し数時間後には下部消化管内視鏡検査を施行しましたし、研修中は内村先生より心臓や腹部・頸部超音波検査も忙しい診察の合間を縫って丁寧に教えていただきました。その他外来への陪席や、各家庭やグループホームへの訪問診療を体験しました。第一週の土曜日には出水市民大学が催され、ちょうど出水総合医療センターの先生方が講演されるとのことで聴講いたしました。いずれの先生方も市民の皆さんに各々の分野の疾患を啓蒙するために、解剖生理から気をつけるべき徴候、予防法に至るまで平易な言葉で説明されており地域のヘルスケアマネジメントの一つの形を体験しました。2 週目は高尾野診療所での研修でした。外来診療はこれまで救急で数えるだけしか行ってきませんでしたが、西元寺先生の指導のもと生活習慣病に対する指導からマムシ・ムカデ咬傷に至るまで多くの症例を経験することとなりました。限られた時間の中で必要なことを聞き適切に対応するという外来診療の基本を僅かながらですが学べたと思います。高尾野診療所での研修の一環として特別養護老人ホーム鶴寿会たかおへの往診にも同行し、地域における介護施設の重要性についても説明いただきました。また、出水保健センターでは母子保健に対する行政の取り組みを学びました。上場診療所への出張診療にも 2 度同行し主に僻地でのフォローアップ外来を体験しました。危急な症例はありませんでしたが、生活に根付いた、雑談とともれる問診の中から患者さんが抱える心配事や問題点を聞き出すという救急外来とは異なる対応も勉強になりました。

3 週目以降は出水総合医療センターの総合内科で研修を行いました。主に午前中は初診の患者さんの外来を担当し、救急要請があった時は救急部で各科の先生方とともに診療に当たりました。救急外来にはそれ以外にも 2 回院内オンコールという形で初期診療にあたる機会をいただき、野田診療所での 1 次救急対応も経験しましたが、いずれの場面でも自身の勉強不足を痛感し、今後さらなる研鑽を積む必要性を感じました。

最後になりましたがご多忙の中ご指導賜りました先生方、コメディカルの方々、職員の方々、関係各位のすべての方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 10 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

熊本大学医学部附属病院

研修医 瀬尾 優太郎 2015 年 9 月

熊本大学病院初期研修医 2 年目の瀬尾優太郎と申します。この度は 9 月の一ヶ月間を地域医療研修としてこの出水で生活し、研修を終えることができましたので、ご報告並びにご挨拶させていただきます。

まず初めに自己紹介ですけれども、私の父が転勤族でして、鹿児島県奄美大島の笠利町という田舎町にいるときに母が私を身ごもりました。いざ出産となった時に帝王切開が必要ということが分かりましたが、当時の奄美大島では帝王切開ができず急遽飛行機で鹿児島へ飛び、鹿児島市立病院で生を受けました。そのときの話を両親から聞いたときに鹿児島の離島や僻地の医療について考える機会となるはずでしたが、幼い私にとっては「出産って島じゃできないんだなあ、大変だなあ」くらいにしか考えていませんでした。数学が好きだった私は漠然と「数学者」という夢を追って理学部に進学しましたが、これまで学んだことが無かった生物に興味を持ち、次第にヒトのカラダへ興味がうつっていきました。といった経緯で医学部に再入学し、現在産婦人科医を志して研修中です。

今回、出水での研修を選択した理由はいくつかあります。一つ目は立地です。熊本県と鹿児島県の県境にあるこの病院は、おそらく鹿児島大学と熊本大学の両方から先生方がいらっやってるのではないかと。体は鹿児島育ちですが、医療の勉強は熊本育ちの私にとっては鹿児島の現状を知る良い機会になると思いました。ただし私が月の初めにひいた風邪が長引き、ことごとくアフター5 の先生方との交流の飲み会を欠席したため、この目的はほとんど達成されていません、残念です。体調管理が今後の課題となりました。二つ目は鹿児島大学病院の研修医も受け入れているということ。今回は鮫島くんという爽やかな青年と一緒に、鹿児島大学での研修の様子など沢山話を聞くことができました。また彼は積極的に内科救急を受け入れる病院での研修も経験していたため、救急の初期対応や抗生物質の選択などの話もできてとても刺激を受けました。三つ目は診療所での研修ができる点。出水総合医療センターのように地域医療研修を受け入れている病院は、実際その地域の核となる病院であることが多く、救急患者は 3 次まで受け入れざるをえなかったり、多科をもち、ある程度何でも検査出来る。そうすると現在研修している福岡の市中病院を少し規模を小さくしただけになってしまう。そこで限られた医療資源で高齢者に立ち向かう診療所の現場をみたいと思い、出水を選択することとしました。

出水に到着した際の第一印象は「結構色んな店が揃ってるな」といった感じで、僻地医療を経験するために意気込んでいた私にとっては都会にすら見えました。しかし実際は患者さんは後期高齢者の割合が多く、診療科はいくつもあるものの医師の数は少なく一人一人の負担はとても大きいように感じました。この病院がこの地域を守る最後の砦なんだろう、そういう病院が日本中いたるところにあるのだろうなと思うと、「田舎ってのどかでよいな〜」とおだやかな気持ちでもいられなくなりました。研修では診療所や医療センターで主に外来の診察を担当させていただきましたが、高齢者の独り暮らしや交通手段のない患者さんなど様々な生活状況の中では、同じ診断であっても入院の適応は様々であることに気がさせられました。大学院や福岡の街中にある病院ではいつまでたっても気がつかないかもしれません。地域を支える医療、その中に今後私も参戦する時が必ずきます。そこが出水では無いかもしれないけれど、出水での1ヶ月をベースとして今後も地域医療に関わっていきたいです。

この度はお忙しい中、熱く厳しく御指導くださり本当にありがとうございました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 11 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

研修医 大脇 一人 2015 年 10 月

鹿児島大学病院初期研修医 2 年目の大脇一人です。地域医療研修として、2015 年 10 月の 1 か月間、出水総合医療センターで研修をさせて頂きました。私は鹿児島市出身ですが、出水に来るのは今回が初めてで、見知らぬ土地での研修に期待と不安が入り混じった状態で研修が始まりました。しかし、研修の序盤で流行性角結膜炎に罹ってしまい、1 週間ほど研修中止せざるを得なくなり、関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけするとともに、患者として出水の医療機関にも大変お世話になりました。

さて研修のほうはといいますと、最初に野田診療所に行かせて頂きました。ここでは、外来診察を見させて頂きながら、自分でも外来診察する機会を頂きました。また、腹部・心臓・頸動脈エコーや上下部内視鏡検査の手法についても丁寧に御指導頂きました。次の高尾野診療所では、多くの患者様を外来で診察させて頂きました。訴えに耳を傾け、多くの情報を引き出すコミュニケーションスキルの大切さを身に染みて感じました。最後は出水総合医療センターの消化器内科を回らせて頂き、消化器センターで内視鏡検査のご指導をして頂きました。先生方はあっさり短時間で検査を済まされていくのに対し、自分で実際にカメラの操作をさせてもらおうと、思い通りにいかず、何事も継続・習練が不可欠であることを改めて実感しました。

このほかにも、上場診療所で患者様の診察する機会を頂きましたし、出水総合医療センターの医療安全管理室・地域医療連携室・リハビリテーション技術科・臨床検査科でも研修させて頂きました。普段、検査をオーダーすることはあっても、その裏でどのようにして検査が進行しているのかを目にしたことがなかったので、貴重な機会を得られましたし、同様に、リハビリの介入をお願いすることはあっても、OT・PT・ST の方々がどのようにしてリハビリを行っているのかを見る機会もあまり多くないため、方法やアプローチの仕方等のお話を聞けて大変良かったです。

今回の地域医療研修では多くの方々と接し、様々なお話を聞き、安全で質の高い医療を提供するためには多職種の連携を密にし、十分なコミュニケーションをとっていくことが肝要であると再認識されられたと同時に、出水のような比較的大きな都市から離れた、医師が不足している地域では専門性だけでなく、オールラウンドな診療スキルも求められ、私がこれから医師としての道を歩んでいくうえで、広い視野を持って、技術・医学の習得に勤しんでいかねばならないと思いました。

最後に、ご指導下さいました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げ、研修報告とさせて頂きます。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 11 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

九州大学病院

研修医 結城 光太郎 2015 年 10 月

初めまして、九州大学病院研修医 2 年目の結城光太郎と申します。2015 年 10 月に地域医療研修として 1 ヶ月間出水市で研修させていただきました。

研修内容としては、院外研修として、高尾野診療所、野田診療所、上場診療所への往診、出水保健センターでの健診などを行いました。院内研修としては、出水総合医療センター総合内科での研修を中心に、救急外来での救急車対応、消化器内科で内視鏡、整形外科手術、また医療安全・医療連携・臨床検査・リハビリテーションなど様々な部署でお世話になりました。

診療所では外来診療、往診による慢性期疾患のフォロー、腹部エコー、心エコーなどの検査を行いました。今までに経験のない外来診療で、限られた時間の中で患者さんとの関係を築き、合併症の進行・新規病変の出現に注意しながら診察することの難しさを強く実感しました。walk in の心筋梗塞などの緊急疾患も経験し、貴重な経験となりました。また、検査においても外来で忙しい中マンツーマンでの指導をしていただき、大変勉強になりました。

院内研修では、総合内科で初診患者さんの問診・診察をさせていただきました。得られた情報・所見から追加検査・治療方針を決定していくプロセスを理論的に学ぶことができました。吉井先生の思考過程に触れ、付け焼き刃ではない系統的な知識が必要だと改めて感じました。

また救急外来での救急車対応も経験させていただきました。大学病院の研修では触れる機会の少ない common disease の初期対応を経験できました。救急外来、検査室、他科の医師・スタッフとの連携がスムーズであり、救急外来到着から検査、入院までがスピーディだったのが印象的でした。

保健センターでの健診、院内における臨床検査、医療安全、地域医療連携、リハビリテーション科での研修を通じて、様々な職種の方の医療への関わり方を実際に見ることができました。市民の健康を支えるには多様な角度からのアプローチが必要であり、私たちの安全・健康は多くの人に支えられていることを実感するとともに、医療を支える一員として努力していかなばならないと思いました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご指導いただいた先生方、コメディカルの方々、スタッフの方々、診察させていただいた患者の皆様、誠にありがとうございました。この出水の地で学んだことを糧に、立派な医師になれるようより一層努力していこうと思います。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 12 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

研修医 有村 尚也 2015 年 11 月

鹿児島大学病院 2 年目研修医の有村です。

ここ出水には 6 年生の時に実習で来させて頂きました。1 週間という短い時間でしたがとても充実した実習ができ、初期研修でリピートすれば新しい発見があるのではと思い 2 年ぶりに戻ってきました。用意して頂いた医師住宅は設備が充実しており、すんなりと初日の研修に入ることができました。1 か月のうち前半の 2 週間は診療所での研修でした。1 週目の野田診療所ではエコー検査や上部消化管内視鏡検査を経験しました。同診療所では午後から往診に向かいました。私が往診に向かった先ではその日特別体調を崩されている方はいらっしゃいませんでしたが、「病気になって病院に来た人を診る」だけでなく「病院に来ることができない人が健康であることを診に行く」という医療も人々の健康を守っていると感じました。

2 週目は高尾野診療所での研修でした。外来を担当したのですが、これまで救急外来以外は病棟での研修ばかりで、これだけしっかりと一般外来をしたのはほぼ初めてで最初は戸惑いました。カルテばかり見つめるのではなくてまずは患者さんとしっかり話をすることを心がけることで、楽しさが生まれ心の余裕が出て少しずつ上手く診療できるようになりました。同診療所ではある日、牛に蹴られた男性が運ばれてきました。外科的治療の必要性を考慮してすぐに本院に搬送しましたが、診療所では出来ることと出来ないことがあるという現実を目の当たりにし、同時に農業・漁業・畜産が盛んな地域ならではの外傷に遭遇するという貴重な経験にもなりました。

3 週目以降は本院に戻って消化器内科で研修しました。外来初診や腹部エコー検査、上下部内視鏡検査を中心に研修しました。腹部エコーは各臓器を一通り描出できるようになったかと思います。あと疾患別では妙に急性胆管炎を経験することが多く、おかげで休日の救急外来でまたも急性胆管炎に遭遇した時には速やかな対応ができました。これは自信になりました。

研修ではその他、上場診療所では血圧計と聴診器しかなく本物のへき地医療を経験し、出水市保健センターでは 3 歳児健診にも参加しました。このように様々な施設、様々な領域で出水の医療を体験することができ、1 か月という短い時間で大変濃密な研修が出来たと思います。研修以外でも充実した時間が過ごせました。仕事終わりには飲み屋街にくりだして近辺の開業医の先生方も交えての飲み会に参加し、最後の日曜日には市民駅伝にも参加しました。仕事終わりや休日も充実した 1 か月となりました。久々の出水での生活はとにかく楽しかったです。先生方も皆やさしく熱心に指導してくださり、出水のまち全体の雰囲気も好きになってとても居心地が良いと感じました。ご縁があればまた出水に来たいです。1 か月間大変お世話になりました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 27 年 12 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

北九州市立医療センター

研修医 小川 のり子 2015 年 11 月

北九州市立医療センター初期研修医 2 年目の小川のり子です。11 月の 1ヶ月間、出水総合医療センターで地域医療研修をさせていただきました。

はじめの 2 週間はそれぞれ高尾野、野田の診療所を 1 週間ずつまわらせていただきました。高尾野診療所では午前中外来診察、午後は在宅の方の往診や病棟業務を、野田診療所では午前は上部消化管内視鏡や腹部エコーなどの検査と外来診療、午後は往診をさせていただきました。診療所をかかりつけとしており定期的に受診されている方の外来では、患者さんそれぞれでベースの疾患や問題、他への紹介が必要かどうかなど異なり、各科を全般的に統合して診られていました。受診された患者さんの症状だけでなく、最近はどう過ごしているのか、仕事はできている？家族はどうか？介護等していれば疲れは出ていないか？など周りの環境や精神状態、心身ともに健康であるのかを世間話を通して聞き出し気にかけて言葉かけをしていたのが印象的でした。また予定された外来だけでなく外傷や喘息発作など急な対応が必要な症例もあり、診療所で対応できるものであれば縫合や点滴を行いました。診療所の周りには個人病院でも外科系疾患を診る所は少ないようです。診療所では先生が 1 人や 2 人で診療されており、予定外のことがあればそれだけ予定の外来に影響が生じ 1-2 時間以上予定よりも遅れるといったことが頻繁にありましたが、それでも待たされた、と言う患者さんはおらず、患者さんが多くて大変ね、とねぎらってくれる方が多かったのも印象的な場面でした。病院が少ない所だから、緊急のことがあればお互いさま、と感じておられるようでした。

往診でも、年々家で診ている方が少なくなってきたとのことでしたが、1 件 1 件自宅もしくはグループホームへ出向き、変わりないかの確認や必要であれば採血や点滴も自宅で行われていました。在宅で診ておられる患者さんは動きにくい方も多く、介護者も同様にお年寄りというケースもあり、なかなか自分で外来へ来ることは難しいと思います。そんな中、地域に根付く診療所の役割は大きいもので、地域の患者さんの心の支えになっているように感じられました。

出水総合医療センターでは外科、消化器センターでの研修をさせていただきながら、地域医療連携、医療安全、検査科、リハビリについて学ばせていただき、患者さんを取り巻く医療現場での多職種での連携の必要性を感じました。様々な外科手術にもつかせていただき、また搬送の問題や緊急時の輸血など、地域ならではの大変な点も伺い知ることができました。

1 ヶ月という短い間でしたが、地域に根付く医療の重要性とともに、そこに生じる問題にも気付かせていただく貴重な時間となりました。今後の医療に生かしていければと思います。指導して下さった先生方や関係者の皆様、どうもありがとうございました。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 1 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

北九州市立医療センター

研修医 山田 裕 2015 年 12 月

北九州市立医療センター初期研修医 2 年目の山田 裕と申します。

2015 年 12 月の一ヶ月間、初期臨床研修プログラムの地域医療として、出水総合医療センターで研修をさせていただきました。

野田診療所、高尾野診療所、上場診療所、出水保健センター施設、出水総合医療センターでは外科を中心に研修を行いました。

各診療所では、外来での慢性疾患のフォローや検査（心エコー、腹部エコー、上消化管内視鏡）を中心に経験しました。患者さんを取り巻く環境にも触れつつ診療に携わっていたのが印象的でした。

往診では、診療所に来るのが困難な患者さんや困難な環境にいる患者さんの診療も経験しました。検査も十分に行えない状況で患者さんの表情や対話の中で診療を行うのは初め大丈夫かなという思いがありました。

院内研修では外科を選択し、急性胆嚢炎など多くの症例を経験しました。違う施設でのやり方を見れたのは勉強になりました。

保健センターにおける母子の健康、その他多くの悩みに関する相談に来るのを待つのではなく悩みを抱えている人を見つけて相談にのるよう心がけている取り組み方も非常に印象に残っています。

また出水医療センターでは医療安全室、地域連携室、リハビリテーション技術科、検査室などの多職種における研修もさせていただきました。地域での医療に限った事ではありませんが色々な職業の方との協力により患者さんにとってよりよい医療を提供できるのだと改めて感じました。

出水で地域の研修ができて本当に良かったです。

最後ですが、地域研修担当の宗清先生、花田先生をはじめとする外科の先生方、各科の先生方、各診療所の先生方、コメディカルの方々、職員の皆様本当にありがとうございました。

いつか機会があって一緒に働くようになった時はどうぞよろしくお願いします。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 2 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

九州大学病院

研修医 津田 美希 2016 年 1 月

九州大学病院初期臨床研修医 2 年目の津田美希と申します。平成 28 年 1 月の 1 ヶ月の間、地域医療研修として出水総合医療センターで研修させて頂きました。

「地域」研修ということで福岡県から離れた地域で研修したいと思い、出水総合医療センターを選びました。出水には自分の車で来たのですが、出水に来た日(1/3)はとても暖かく絶好のドライブ日和でした。出水に到着してまず初めに鶴を見に行きましたが、1万5千羽程の鶴を間近で見たことはなかったので凄く驚きました。

研修内容についてですが、野田診療所・高尾野診療所・上場診療所・出水保健センター・出水総合医療センターで1ヶ月研修させて頂きました。

野田診療所・高尾野診療所の研修では、慢性疾患の外来を見学したり、実際に外来診療を行ったり、往診に行ったりしました。学生時代に外来の見学はしていましたが、慢性疾患の定期通院の外来を見学するのは初めてでとても興味深かったです。また、往診では医療機関の受診が難しい方の訪問診療を行いました。内村先生も西元寺先生もとても広い範囲の往診を行っており、外来診療を行いながらの往診を行うことは本当に大変だなと思いました。

出水総合医療センターでは循環器内科を研修し、外来見学や心カテの見学、病棟での処置につかせて頂きました。また、医療安全管理室・感染対策委員会・地域連携室・臨床検査科・リハビリテーション科の研修もさせて頂きました。普段お世話になっている多職種の方々の仕事内容を聞き、日々の診療で疑問に思っていたことも質問できたのでよかったです。大学での研修では多職種の方と話す機会は中々なく、今回の研修を通じてチーム医療を行う上で多職種の方々とコミュニケーションをとることは本当に大切だと痛感しました。

出水での一ヶ月を終えて地域の方々との関わり方、高齢化が進んだ地域での医療の現状といった大学の研修だけでは分からない多くのことを学ぶことが出来ました。大学病院とは違い、各診療科や各職種の方々との垣根が低く、色んなところで多くの方々と話せたことが本当に嬉しかったです。また、福岡という都市部と違い、基幹病院が少ない場所で研修することで、大学病院の研修だけでは分からなかった地方の医療の現状、また、この出水で医療をされている先生方の思いを知ることが出来ました。この1ヶ月の研修で学んだことを活かして今後も頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、この場をお借りして野田診療所・高尾野診療所・出水保健センター・出水総合医療センターの皆様にご心より御礼申し上げます。御多忙の中、数々の御指導ありがとうございました。とても充実した1ヶ月になりました。地域研修で出水総合医療センターを選択して本当によかったです。

出水市立 出水総合医療センターにおける初期臨床研修（地域医療）を終えて

（平成 28 年 3 月 1 日発行）

〈研修医師の感想〉

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

研修医 玉井 元規 2016 年 2 月

鹿児島大学医学部附属病院 初期研修医 2 年目の玉井 元規と申します。

今回、2016 年 2 月の一ヶ月間、出水総合医療センターをはじめとする出水地域の医療施設にて地域研修をさせていただきました。私は、鹿児島県鹿児島市出身ということもあり、出水のイメージは「鶴の街」、「熊本に近い」、「鹿児島市から遠い」といった感じではありましたが、初日、車で鹿児島市から出水に向かった時は、高速道路が発達してきたこともあり、「意外と近い」という印象に変わりました。また新幹線で鹿児島市まで 25 分弱と自分の日頃の通勤時間より短いことに衝撃を受けました。鹿児島県も都会になったなあとしみじみ思います。

そんな出水での研修は、野田診療所、高尾野診療所、出水総合医療センターを中心に、出水保健センターや上場診療所、第 2 病院等の施設にもお邪魔させていただきました。

内村先生が一人で診療されている野田診療所は、元々病院であったこともあり、院内検査室から CT までそろっており、内視鏡検査も含め、一通りの検査が出来ることに驚きました。以前は入院病床もあったそうですが、今は外来を中心に訪問診療もされていて、院内病床はなくなっても出水地域に入院ベッドが散らばっている感覚に陥るほど、地域医療に密着し、医療を提供している印象を受けました。一方、高尾野診療所はスケジュールの都合上、あまり長く研修することは出来なかったのですが、外科出身の西元寺先生と内科の長谷川先生の二人体制の有床診療所であり、夜間の体制を含め二人の先生の連携には、野田診療所とはまた違った印象を受けました。どちらの診療所に対してもいえることは、地域のかかりつけ医として長年医療を提供されていることであり、診察技術等の前段階である、「患者さんへのコミュニケーション」から大変勉強になりました。

総合医療センターの方では、循環器内科を中心に多職種連携研修と、大学病院等と同じ多診療科の病院でありながら、医師同士・医療関係者同士だけでなく、患者さんを含めた人と人との距離感が近いことに驚きました。総合医療センターの循環器内科は阿久根の広域医療センターとの棲み分けがされており、救急循環器よりも慢性循環器に重きを置いている印象でした。どちらが良い悪いとかではなく、どちらか一方でもかけてしまうと地域医療のバランスは崩れてしまうため、それぞれの役割を全うすることが大切だと感じました。また、夜間一次救急含め、各種勉強会では二つの医療センターのみならず開業医の先生方との関わり合いもあり、身分関係なく、地域全体で地域医療を支えていることが一番印象に残りました。

最後に、1ヶ月間、各医療機関におかれましては数日単位と大変短い期間ではありましたが、まだまだ未熟である私に対し、熱く熱心にご指導頂き、また、地域の方々におかれましても研修にご理解とご協力頂き、心から感謝のお礼を申し上げます。ありがとうございました。